春興

御代明らけく治れる
廿二とせの明けの春
庵にあら玉光りかさせは
空五條式下タ二見形
連衆席扎數增るとそ
春を壽く雅の御慶哉

右和詩

文臺に仲くや注連の初日影　庵主虎洲
集ふ學ひの席の麗かに　桃陽
松か枝の風和かに音つれて　蘿月
皺なき水の入江長々　藍江
桂男は司召されて曠の馬車　靜波
衣紋の錦秋の彩り　保泉
千はやふる神は利生を常盤に　藍汀
賣れ急く餅料足魁　龜遊
欠落て暫し逢ふ瀨の隅田川　東雲
よし蘆の芽は胸の漂ひ　桂花
雞の音に關おし開く年の花　霞汀
埃りきつはり膳居りけり　鶴居
氣の置けぬ逢を馳走と緣邊客　寬水
アハ〳〵手打の兒そゝり上ケ　精山
近江路は八つの勝れ地五月晴　楚江
鐘の尾に曳く法りの涼しみ　虎睡
戰ひも和睦汲み合ふ酒の味　準富
曾呂利祝せと脇息による　安彦
月澄めは波もしつまる四つの海　子久
往來する鳥魚も洲走り　知友
生キ延ひて温故知新の果報耳　廣由
炊きのけふり日〳〵に貧直く　杠福
咲き進む花に明るき道の文や　桂保
遊ひ桑へて友そめく春　里鶴

右短歌行

席上各詠

桂木の森や霞を八重の幕　桂保
五歩十歩花に心や置きむしろ　桃陽
長閑さや鶴を蒔繪の里つゝき　里鶴
初花や時候調ふ鳥の聲　蘿月
江の龜やぬるむ日南に水遊ひ　藍江
釣に浮く舟や霞んて波靜か　靜波
楊る帆に和はらく風の出舟哉　保泉
傾く日や長き汀をくれ惜み　藍汀
朧夜や引て一里の戻り馬　龜遊
しの〳〵めや明り羽た〳〵く初鳥　東雲
名を愛て花も雪吹や嵐山　桂花
浪幽か松か根高き汐干かな　霞汀
鶴七日居はる天氣や里長閑　鶴居
寬〳〵と和らく水や川の幅　寬水
友に窓開く出來畵や筆つ花　精山
梅か香のつ〳〵くや闇の道しるべ　楚江
柏手や拜む惠方に胸の注連　虎睡
なそらへの陣や區〳〵かへる雁　準富
高殿や笑ふ山彦遠目鏡　安彦
春幾日子にやつれたる乙鳥哉　子久
よる年を知る友同士やはつ笑ひ　知友
廣き野や所〳〵に遊ひの階子酒　廣由
年棚や神のゆつり葉仲く福　杠福
笑ひ浮く山や一天日の鏡　幽篁齋
　　虎洲

追加

水石契久
若水や石も　中教正
みどりの苔衣　曙菴
　　虛白